

令和5年7月 21 日

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第 2 号 (普通期水稻)

1. 気象概要 (アメダス:唐津地点)

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差
		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	mm	mm	(%)	時間	時間	(%)
5月	1	17.5	17.4	0.1	23.4	22.4	1.0	11.9	12.8	-0.9	9.5	20.1	47	41	35.5	115
	2	16.4	18.1	-1.7	21.4	23.1	-1.7	11.9	13.6	-1.7	115.5	24.4	473	21.1	35	60
	3	18.1	18.8	-0.7	23.7	23.7	0.0	13.8	14.3	-0.5	8	26.1	31	38.1	35.1	109
	4	20.4	19.4	1.0	25.0	24.3	0.7	16.9	15.0	1.9	15.5	22.2	70	34.8	35.5	98
	5	18.8	19.9	-1.1	25.0	24.8	0.2	14.1	15.7	-1.6	0	17.8	0	31.9	34	94
	6	22.4	20.4	2.0	26.8	25.0	1.8	19.1	16.5	2.6	73.5	18.5	397	38.5	37.1	104
6月	1	21.4	20.9	0.5	26.2	25.2	1.0	17.4	17.3	0.1	15.0	18.2	82	26.2	27.3	96
	2	20.7	21.4	-0.7	25.1	25.4	-0.3	17.6	18.2	-0.6	26.5	27.2	97	18.3	24.5	75
	3	23.0	21.9	1.1	28.0	25.7	2.3	20.1	19.0	1.1	0.5	40.5	1	28.0	22.3	126
	4	23.5	22.4	1.1	30.0	26.1	3.9	19.4	19.6	-0.2	0.0	54.5	0	45.1	20.6	219
	5	23.0	23.0	0.0	26.9	26.6	0.3	20.5	20.4	0.1	63.0	65.1	97	16.7	17.8	94
	6	26.7	23.9	2.8	30.0	27.3	2.7	24.1	21.3	2.8	57.0	73.6	77	6.1	14.8	41
7月	1	26.0	24.7	1.3	29.9	28.0	1.9	23.3	22.2	1.1	176.5	87.3	202	11.2	15.2	74
	2	26.6	25.3	1.3	29.9	28.7	1.2	23.9	22.8	1.1	280.5	92.9	302	12.6	19.9	63

6月5半旬以降曇天・雨天が続き、日照時間は短くなった。7月7日から10日に断続的な降雨が続き、7月2半旬の合計雨量は280mmとなった。特に、7月10日は121.5mmの降雨があり、管内の一部地域では大雨による圃場の浸冠水、土砂流入が見られている。

2. 生育状況 (調査日:7月11日)

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市巖木 町天川 5/14 移植 標高 650m	本年値	78.1	428	10.5	44.0	・草丈は高い ・茎数は平年並み ・出葉は平均並み ・葉色は濃い
	平年値	70.1	447	10.6	40.2	
	平年比	111	96	-0.1	+3.7	

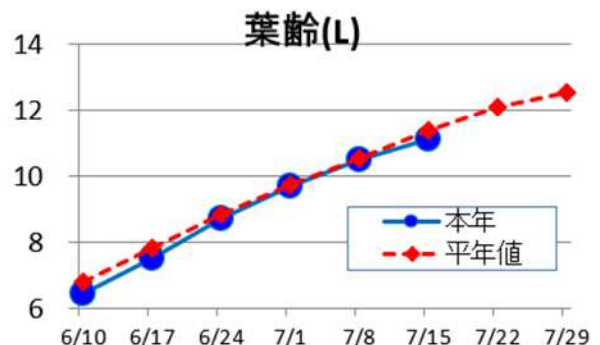
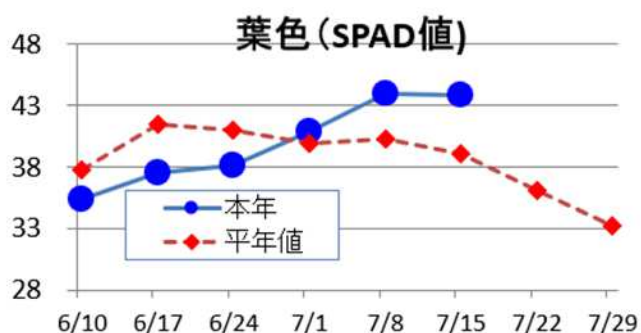
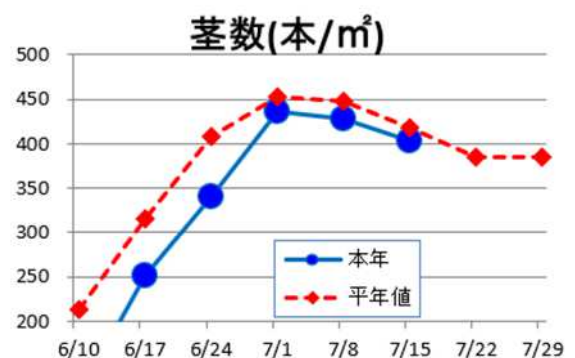
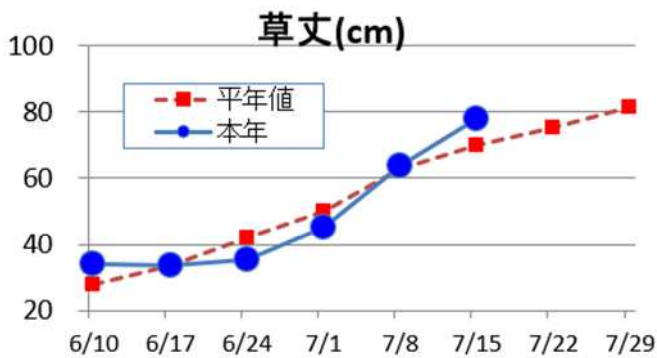
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	51.1	127	8.6	40.4	・草丈は平年並み ・茎数は少ない* *本年産の栽植密度が低いため ※平年値は佐志の H29~R2 の 平均値のため参考
	平年値	52.3	330	9.3	39.7	
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/21 移植	本年値	37.4	137	8.3	40.7	・草丈は平年より高い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年よりやや早い ・葉色は平年より薄い
	平年値	33.3	260	8.2	42.9	
	平年比	112	53	0.2	-2.2	

(1) 山間早植え

作況ほの「コシヒカリ」は、5月 14 日に移植された。移植後曇天が続き生育が抑制されたが、5月中旬から6月初めにかけて天候が回復し好天が続いたことから、分けつの発生も盛んとなり生育は回復し、草丈・茎数ともに平年並みとなった。7月 2 半旬の断続的な降雨により、草丈はやや高くなり、茎数はやや少なくなった。7月 4 日に幼穂長 1mm、節稈長 1cm を確認している。

作況ほでは、いもち病やウンカなどの病害虫も今のところ発生していない。

◎コシヒカリ作況圖の生育グラフ(巖木町天川)



(2) 普通期水稻

作況ほの移植時期であった6月中旬は比較的天候が安定したため、活着は安定した。6月6半
 淳から曇天・雨天が続いているため、草丈は比較的高く、分けつの発生は抑制されている。また、降
 雨が続き深水となっている圃場では、分けつが確保できていない圃場も多い。

3. 今後の管理

(1) 早期・山間早植え

① 栽培管理

- ・コシヒカリについて、4月に移植された早期の圃場では出穂期から穂揃い期となっている。また、
 5月に移植された圃場では最高分けつ期～幼穂形成期となっているため生育ステージに応じ
 た管理を行う。
- ・中干しは、有効茎数が20本/株程度確保出来たら実施する。(草丈目安概ね50cm)
 その後は間断灌水に移行する。
- ・中干し後、軽く足跡がつく程度に固まった圃場では間断灌水を行う。幼穂形成期か
 ら穂揃期は浅水管理する。
- ・5月以降に移植された圃場では穂肥の時期となるので、次ページの表に基づいて穂肥診断を行
 い穂肥を施用する。
- ・なお、特栽コシヒカリでナタネペレットを施用する場合は窒素肥効の発現に時間がかかるので幼
 穂長が1~2mm確認できた段階で穂肥診断を行い穂肥を施用する
- ・今年は葉色が濃い圃場が多いため、葉色が薄くならない圃場では穂肥の施用量を遅らせたり、
 時期を遅らせるなど対応する。

《表1 コシヒカリ(一般栽培)の穂肥診断基準》

	葉 色		施用時期		穂肥施用量
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
生育不足	2.5 以下	28>	25~23 日	1~2mm	2.0
標 準	2.5-3.0	31	18~16	1.5~2.5cm	2.0
濃 い	3.0-3.5	34	15	2.5cm	1.0
過 剩	3.5 以上	35<		施用しない	

※第3葉身長(出穂前 22~18 日ごろの最上展開葉)が 42cm以上、または第5節間長が3cm
 以上の場合、倒伏が懸念されるので穂肥は施用しない。

《表2 コシヒカリ(特別栽培)の穂肥診断基準》

	群落葉色	穂 肥 時 期		穂肥施肥量
		出穂前	幼穂長	10a 当たり
なたねペレット	3.5 以下	25~23 日	1~2mm	20kg
	3.5 より濃い	—	—	施用しない

※施用資材・量等は、特栽の有無・地域により異なるので、地域の暦参照

②病害虫管理

- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。
特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。
 ただし、特別栽培認証制度を申請した圃場では、農薬成分カウント数に注意する。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
トライフロアブル (テブフロキン)	2回以内	2回以内	収穫14日前まで	
オリブライト1キロ粒剤 (メミノストロビン)	1回以内	1回以内	出穂10日前まで	湛水散布
カスミン液剤 (カスガマイシン)	2回以内	本田2回以内	穂ぞろい期まで	
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち: 初発10日前～初発時 穂いもち: 出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い

(2) 普通期水稲

①栽培管理

- ・6月上旬に移植された「夢しずく」は茎数の確保が進んで有効分けつ決定期から最高分けつ期となるので中干しを実施する。
有効茎数 20 本/株程度が確保された圃場では中干しに入る。(草丈目安概ね 50cm)

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

- ・6月中旬以降に移植された圃場では引き続き浅水管理を行い分けつ茎の発生促進と茎の充実を図る。
- ・スクミリングガイが多発している圃場で落水している圃場では田面が露出してひび割れが生じている圃場もある。このような圃場では適宜通水を行い、茎が硬化すれば浅水管理に移行する。

②病害虫管理

- ・いもち病の発生は今のところ確認していないが、今後の長雨で発生が予想される。置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
- ・作況圃等ではトビイロウンカは確認していないが、県内では7月5-11日の間でトビイロウンカの飛来が確認されているため今後の発生状況に留意しつつ本田防除に備える。
- ・雑草発生が早くから見られる。特に「コナギ、ホタルイ、ノビエ」について発生が多い圃場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。
 なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。

③大雨による浸水・冠水被害対策

7月7日から断続的に続いた大雨により、浸水・冠水した水稻ほ場が見られる。

以下の留意点を基本として、大雨による被害対策に努めること。なお、下記の作業については、天気予報等を確認し、河川や水路の増水や土砂崩れなどの危険がないことを十分確認した上で行うこと。

(1) 共通事項

- ① 浸冠水した場合は、退水後速やかに新しい水と入れ替えたのち、発根・分けつの促進、根の老化防止や稲体の支持力を高めるため、しばらく落水状態とし、圃場の地耐力が不十分（土壌が軟弱）な場合は表層排水を促すよう明渠（作溝）を整備する。
- ② 浸冠水を受けると、稲の抵抗力が弱まるため病害虫の発生が多くなる場合があるので、圃場をよく見回り、早期発見につとめ、発生に応じ薬剤防除に努める。
- ③ 白葉枯病が発生した場合は、本田の生育が回復した後、薬剤防除に努める。
- ④ 上位 3 葉に葉いもちが発生している場合、穂ばらみ期と合わせて、穂揃い期に穂いもちの臨機防除を実施する。
- ⑤ 水路や畦畔が土砂で埋まったり、崩れたりしているところもあるため、水路や畦畔等を確認し、清掃や整備を行う。

(2) 山間早植え水稻

- ① 水稻の生育期間で最も水を要する時期であるため、浸冠水し落水する場合も黒乾状態を保つようにする。

(3) 普通期水稻

- ① 土砂や草木、ゴミ等の吹き寄せ・流入等により稲株を押し倒し、覆い被さっている場合は、速やかにレーキ等で取り除く。併せて、用排水の管理をきめ細かく実施し、豪雨による有機物の浮き上がりを防止する。
- ② 麦わら等の有機物が多い場合は、1～2 日間の落水を実施し、ガス害の軽減に努める。
- ③ 浸冠水で水稻が軟弱となった圃場では、スクミリングガイの被害を受けやすくなる。また大雨で水路から圃場へ水が流入すると、スクミリングガイが再侵入し被害が拡大する恐れがある。天候回復後は、浅水にして貝の活動の抑制に努めるとともに、必要があれば薬剤防除を実施する。
- ⑥ 浸冠水田の中間追肥は、施用時期が遅くならないように留意し、施用量は被害の程度によって減ずる(晩生品種)。
- ⑦ 雑草防除について、これから除草剤を散布する場合、流れ葉となっている圃場では稲の回復を待って散布し、流れ葉となっていない圃場では天候回復後に、使用時期の範囲内で速やかに散布する。
- ⑧ 除草剤処理直後に浸冠水し、オーバーフローした場合は除草剤の再散布を検討する。再散布の際は、1 回目に散布した除草剤に含まれる成分（成分により散布回数に制限ある）と雑草の発生程度に応じて除草剤を選択する。除草剤処理後、2～3 日経過していれば、効果は期待できるので、強制的に落水せず、雑草発生を見極めながら、中・後期の除草剤で対応する。

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター
水田農業・畜産担当

